各種調査結果から見える都市大の教育

東京都市大学では、学生が社会で通用する学修成果を身に付けて卒業することができるよう、教育目標と卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた学修目標に則って教育改革を推進しています。その中では、在学生や卒業生に各種調査に協力していただき、その結果の把握と分析を通じて教育改善の促進、教育制度や教育内容の充実に努めています。ここでは調査結果の概要を紹介します。

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

大学教育再生加速プログラム

卒業生調査

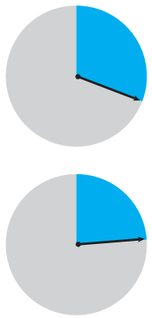
2016年度から卒業後5年・15年を経過した卒業生の協力を得て調査を実施しています。実社会での経験、仕事で求められている能力や実践の度合い、在学中の学修行動等の把握を通じて、都市大で強化すべき能力の確認とそのための施策、在学生のキャリア形成支援等で活用しています。また、これまでの調査結果は、教育改革を実現する上での指針として重要な役割を担う大学全体の教育目標と3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を策定する際の貴重な情報になりました。

【2018年度調査結果】
実施時期：2018年12月～2019年1月
回答数：2003年卒129人、2013年卒244人
回収率：14.6%

自己啓発の時間

2003年卒　平均約 **3.1** 時間／日

2013年卒　平均約 **2.4** 時間／日



リテラシー系

仕事で求められている能力 ※1

2003年卒
1位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……98.3%
2位 問題発見と考察実行力……95.9%
3位 論理表現力……94.2%
4位 多様な情報源の収集整理活用……88.5%
4位 業務用ソフトの活用……88.5%

2013年卒
1位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……93.1%
2位 問題発見と考察実行力……89.3%
3位 多様な情報源の収集整理活用……84.9%
4位 論理表現力……82.7%
5位 業務用ソフトの活用……78.9%

仕事で実践できている能力 ※2

2003年卒
1位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……84.5%
2位 論理表現力……83.6%
3位 多様な情報源の収集整理活用……82.0%
4位 問題発見と考察実行力……81.9%
5位 業務用ソフトの活用……80.3%

2013年卒
1位 業務用ソフトの活用……79.4%
2位 多様な情報源の収集整理活用……70.8%
3位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……69.5%
4位 問題発見と考察実行力……67.4%
5位 論理表現力……67.0%

コンピテンシー系

仕事で求められている能力 ※1

2003年卒
1位 責任感と使命感……98.3%
2位 人との関係を大切に協調的行動……97.6%
3位 やるべきことを定め自らを律して行動……95.1%
4位 仕事のやり方に関する創意工夫……90.1%
5位 多面的大局的な把握力……88.6%

2013年卒
1位 人との関係を大切に協調的行動……95.3%
2位 責任感と使命感……94.0%
3位 仕事のやり方に関する創意工夫……91.5%
4位 やるべきことを定め自らを律して行動……91.0%
5位 向上心をもって学び続ける努力……87.5%

仕事で実践できている能力 ※2

2003年卒
1位 責任感と使命感……92.6%
2位 人との関係を大切に協調的行動……89.4%
3位 仕事のやり方に関する創意工夫……86.9%
3位 傾聴と真意の理解……86.9%
5位 やるべきことを定め自らを律して行動……85.3%

2013年卒
1位 責任感と使命感……86.3%
2位 人との関係を大切に協調的行動……81.1%
3位 やるべきことを定め自らを律して行動……76.4%
4位 向上心をもって学び続ける努力……73.4%
5位 仕事のやり方に関する創意工夫……71.2%

リテラシー系　大学の経験が活かせているもの

2003年卒
1位 業務用ソフトの活用……42.6%
2位 数学を使った分析理解表現……41.9%
3位 多様な情報源の収集整理活用……35.7%
4位 論理表現力……33.3%
5位 問題発見と考察実行力……27.1%

2013年卒
1位 業務用ソフトの活用……52.0%
2位 数学を使った分析理解表現……43.4%
3位 相手の立場理解とわかりやすく伝える力……41.0%
4位 多様な情報源の収集整理活用……39.3%
5位 問題発見と考察実行力……37.7%

コンピテンシー系　大学の経験が活かせているもの

2003年卒
1位 人との関係を大切に協調的行動……38.8%
2位 やるべきことを定め自らを律して行動……32.6%
3位 責任感と使命感……31.0%
4位 向上心をもって学び続ける努力……27.9%
5位 仮説立案とその検証……26.4%

2013年卒
1位 人との関係を大切に協調的行動……56.6%
2位 やるべきことを定め自らを律して行動……41.8%
3位 責任感と使命感……37.3%
4位 向上心をもって学び続ける努力……32.0%
5位 仮説立案とその検証……28.7%

海外業務が自分にとって有益である

2003年卒 75.2%
2013年卒 67.5%

海外での業務希望

2003年卒 61.2%
2013年卒 49.4%

大学に対する満足度 ※3

2003年卒 72.1%
2013年卒 74.1%

卒業時の就職先への満足度 ※4

2003年卒 65.2%
2013年卒 68.4%

低学年から学生自身がキャリア形成の展望をもって、主体的な学びにつなげていくための取組を進めています。

大学時代に学んだことや経験の役立ち度

大学できちんと学びながら、就業経験を積むことも社会に出てから役立っているようです。

2003年卒
1位 アルバイト（学内含む） 64.9%
2位 大学の専門科目 61.3%
3位 卒業研究・ゼミ 58.9%

2013年卒
1位 アルバイト（学内含む） 69.0%
2位 卒業研究・ゼミ 64.9%
3位 大学の専門科目 61.8%

卒業生調査の結果から

多くの卒業生が、規範意識を持って、“目標に向けて地道に、確実に行動する”“成果にこだわり、やり遂げる”力を社会で発揮していることがわかります。教育目標に合致する本学の強みとして、こうした卒業生をこれからも多く輩出できるようにしていきます。一方で、リーダーシップやフォロワーシップ、社会のニーズの変化をキャッチアップする力、実社会で活かせる国際性と教養を身に付けるための教育にこれまで以上に力を注いでいく必要性も把握できました。

※1「特に求められている・それなりに求められている・どちらともいえない・あまり求められていない・ほとんど求められていない/わからない」でのTOP2の割合
※2「後輩や部下等に指導できる・一人でできる・どちらともいえない・上司や先輩からの支援があればできる・できていない/わからない」でのTOP2の割合
※3「とても満足・満足・やや満足・どちらともいえない・やや不満・不満・とても不満」でのTOP3の割合
※4「とても満足・満足・やや満足・どちらともいえない・やや不満・不満・とても不満・新卒では就職していない」でのTOP3の割合

■ 発行年月：2020年3月
■ 発行者：東京都市大学 教育開発機構
お問合せは▶ efsg@tcu.ac.jp

学生実態調査
（在学生＋卒業時）

2、3、4年への進級直後の4月（卒業時は3月）に、前年度の状況について、進学目的の達成度、学修行動、身に付けた力に対する自己評価、学生生活、満足度等について調査しています。その結果は、大学全体と各学部・学科で教育目標等を踏まえながら分析し、改善活動につなげています。

※実施時期　在学生（2～4年生）：2019年4月
　　卒業時（2018年度）：2019年3月
※回 収 率　2年生：97.3%、3年生：97.6%
　　4年生：96.2%、卒業時：73.6%

学科授業について

1位 専門の基礎となる授業が充実している… 56%
2位 専門教育の授業が充実している …… 50%
3位 興味を持てる授業が充実している …… 26%

都市大で身についた力

リテラシー系

一般的・基礎的な力
1位 専門分野の基礎的な知識 …… 69%
2位 幅広い視野や考え方、教養 …… 33%
3位 専門分野と関連する分野の知識 …… 29%

論理的思考力・問題解決力
1位 物事を批判的・多面的に考える力… 42%
2位 現状を分析し、問題点や課題を発見する力… 37%
3位 必要な情報を収集・整理する力 …… 32%

コンピテンシー系

コミュニケーション力
1位 人と協力しながら物事を進める力… 58%
2位 相手の意見を丁寧に聞き内容を理解する力… 37%
3位 自分の考えを相手に伝わるように話す力… 32%

倫理的社会的責任
1位 社会の規範やルールに従って行動する力 …… 48%
2位 感情を上手にコントロールする力 …… 36%
3位 学び続ける姿勢 …… 32%

1日の時間の使い方

▼ 授業への出席
平均約 3.5 時間／日

▼ 授業の課題・準備・復習
平均約 1.4 時間／日

▼ 授業について友人とのデスカッション
平均約 0.9 時間／日

▼ 資格取得等勉強時間
平均約 0.8 時間／日

▼ アルバイト時間（学内含む）
平均約 3.3 時間／日

改善してほしい施設

1位 学食・売店関連
　設備広さ…… 39%
　価格・メニュー… 38%
　売店…… 21%
2位 部活動施設…… 10%
3位 一般教室…… 9%

悩んでいること

なし 50%　ある 50%

内 訳
1位 進路・将来に関すること 32%
2位 勉強に関すること 17%
3位 金銭に関すること 14%

悩みや不安があるときには学生相談室等も活用してください。

後輩推奨度

全体 38%
1年終了時 37%　2年終了時 32%
3年終了時 44%　卒 業 時 42%

各学年とも「わからない」と回答した学生の割合が40%以上います。

資格を取りたいと考えている学生 ※5

58%

取得希望資格については、学部・学科ごとに差異があり、学部・学科の学問と紐づいた資格取得希望者が多くみられます。

※5「今後取得したい資格」の質問において、全体から当てはまるものはない、無回答と回答したものを除いた割合

シラバス活用度 ※6

79%

シラバスの分かりやすさ
64%

学習要覧活用度 ※6

86%

学習要覧の分かりやすさ
68%

※6「活用した・やや活用した・あまり活用しなかった・活用しなかった・無回答」でのTOP2の割合

所属学科の教育満足度 ※7

全体 84%
1年終了時 80%　2年終了時 80%
3年終了時 88%　卒 業 時 88%

学校生活満足度 ※7

全体 83%
1年終了時 80%　2年終了時 78%
3年終了時 86%　卒 業 時 90%

※7「満足している・やや満足している・あまり満足していない・満足していない・無回答」でのTOP2の割合

学生実態調査 卒業時

卒業時には在学生と同一の項目に加え、全学部・学科で必修としている卒業研究に対する取組や成長実感等も確認しています。

卒業研究に努力して取り組めた
88%

1日の時間の使い方・卒業研究（卒業時調査）
平均約 4.3 時間／日

卒業研究の成果（卒業時調査）
1位 自分の研究したいテーマについて追及できた
2位 研究の姿勢を学ぶことができた
3位 研究室の仲間とつながりができた

卒業研究を通した成長実感
成長できた 89%

学生実態調査の結果から

専門に関する授業が充実していることに対する評価が高くなっています。興味がある分野を学ぶ、あるいは専門知識や技術を身に付けることを望む学生が多い中、各学部・学科のディプロマ・ポリシーに則って専門性を育んでいくと同時に、豊かな教養や国際性、社会で役立つ力も身に付いているという実感を、早期から学生が得られるように工夫していく必要があると考えています。現在までに身に付けた力では、「人と協力しながら物事を進める」「社会の規範やルールに従って行動する」の割合が高いことは、都市大の教育目標等で重視しているところでもあり、これまでの卒業生と同様に都市大の学生にとって今後の強みとなる力です。2016年度以降の調査では、授業外での学修時間は増加傾向にあります。また、満足度と推奨度についても、全体的に向上しつつあります。一方、これらの結果からは、低学年での教育内容や教育システム、学修支援等を充実させつつ、早い段階からコミュニケーション力、問題点や課題を発見しそれを解決する力も身に付けていく必要性が見てとれるます。そのため、講義演習科目の充実や段階的に能力を育成するPBL科目を各学年で開設する等、卒業研究につながる学修プロセスの強化に取り組んでいます。

教育改善活動ではFD（Faculty Development:教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組）による教員の教育力向上のみでは良い教育になるとはいえず、教職員の話し合いだけでは十分ではありません。都市大では2018年から学生FD委員会を立ち上げ、学生と教職員が協働してFDに取り組んでいます。2019年度は、学生実態調査の結果も踏まえて3つのポリシー、シラバス、満足度と推奨度向上をテーマとして、学生と教職員がお互いからアイデアを出し合ってより良い方策を見つけるための検討を行っています。